

第3号様式

令和7年度第2回船橋市生涯学習基本構想・推進計画検討委員会 会議録

(令和8年3月16日作成)

1 開催日時

令和8年2月2日(月曜日) 午前10時30分から午前11時53分まで

2 開催場所

船橋商工会議所会館 2階 会議室

3 出席者

(1) 委員 明石 要一、竹迫 和代(※)、辻 大士(※)、五藤 美枝子(※)、
草野 滋之、沼波 規子、水野 恭成(※)

※オンライン参加

(2) 事務局 社会教育課長、社会教育課長補佐、その他社会教育課職員

4 欠席者

奥住 恵子、長尾 常史、栗山 裕真

5 議題及び公開・非公開の別並びに非公開の場合にあっては、その理由

・生涯学習に関するアンケート調査結果と今後の課題について(公開)

6 傍聴者数(全部を非公開で行う会議の場合を除く。)

1人

7 決定事項

・議題について、質疑応答及び意見聴取を行った。

8 問い合わせ先

船橋市生涯学習推進本部事務局(教育委員会生涯学習部社会教育課)

電話：047-436-2895

午前10時30分開会

○明石委員長

ただいまより、令和7年度第2回船橋市生涯学習基本構想・推進計画検討委員会を開きたいと思います。

ここで会議の公開及び傍聴について説明させていただきます。

本会議につきましては、不開示情報が含まれておりませんので、船橋市情報公開条例第26条に基づき公開となります。また、会議後は会議録を作成し公開しますが、その際には委員の皆様のお名前も公開となりますので、ご了承ください。

なお、会議の開催につきましては、市のホームページで開催日時等を事前に周知していることをご報告いたします。

続いて、傍聴についてでございます。本日の会議について傍聴者の受付をしましたところ、1名いらっしゃいますので、今から出席していただきたいと思っております。

(傍聴人入室)

傍聴者の方へ申し上げます。お渡しいたしました傍聴券の裏面に記載されております遵守事項についてお守りいただき、傍聴されるようお願いいたします。では、よろしくお願いたします。

○明石委員長

それでは、本日の議事に入らせていただきます。

次第の1、「生涯学習に関するアンケート調査結果と今後の課題について」であります。事務局よりご説明をお願いいたします。

○社会教育課長

社会教育課長の藤井でございます。配付資料に沿って説明をさせていただきます。少し説明が長くなってしまいかもしれませんが、お付き合いいただければと思います。

オンラインの委員の皆様も私の声が聞こえますでしょうか。

それでは、2ページをご覧ください。前回の会議でも説明をさせていただきましたが、船橋市の生涯学習に関する基礎資料を収集することを目的に、アンケート調査を実施いたしました。調査概要については記載のとおりで、1,322人から回答があり、4割の方が郵送、6割の方がWebで回答していただきました。初めてWeb回答を導入させていただきましたが、郵送回収をWeb回答が上回るという結果になりました。なお、1件だけ、郵送回答で回答として反映できないものがあったため、有効回答数は1,321件、有効回答率は44.0%になっております。

3ページをご覧ください。令和元年度に行った前回調査との比較をさせていただいており、前回調査と異なる箇所には下線を引いております。実施期間を前回よりも10日ほど長くしております。回答方法にWeb回答を追加しております。回収数は、前回よりも58件、1.9ポイント増えております。最後に、前回会議のご意見を踏まえて、現在の「健康状態」、

「幸福度」、「経済状況」についての設問を追加いたしました。

4 ページをご覧ください。ここからは、単純集計の結果を報告させていただきます。

まずは、回答者の属性についてです。5 ページをご覧ください。先にこの後のページにも共通する資料の見方を説明させていただきます。資料の左側に、今回行った調査の結果をまとめており、右側に前回の調査結果をまとめており、前回調査との比較ができるようになっていきます。また、回答数が多い選択肢には下線を引いています。ご覧のページでは、回答者の性別についてで、前回調査と大きな変化はなく、「男性」が4割、「女性」が6割という結果でした。

次の6 ページをご覧ください。回答者の年齢については、前回よりも「20～29 歳」が大幅に増えております。また、「75～79 歳」も増えております。

7 ページをご覧ください。ここでは、今回新たに追加した健康状態や幸福度の結果をまとめています。左側の健康状態については、「まあよい」が 66.6%となっており、右側の幸福度については、「幸せ」と「やや幸せ」が合わせて7割以上を占めています。新たに追加した項目のため、前回調査との比較はありません。

8 ページをご覧ください。職業については前回調査と大きな変化はなく、「会社員」、「アルバイト・パート・契約社員」、「主婦・主夫」、「無職」の回答が上位を占めています。

9 ページをご覧ください。休日についても前回調査と大きな変化はなく、「土曜日」、「日曜日」、「祝日・振替休日」、「仕事や学校などは行っていない」が上位を占めています。

10 ページをご覧ください。同居の状況についても前回調査と大きな変化はなく、同居者が「いる」が多くを占めており、その内訳についても前回と同じような状況でした。

11 ページをご覧ください。ここでは、今回新たに追加した経済状況の結果をまとめています。現在の暮らしの状況を経済的に見て「ふつう」は 45.6%、「やや苦しい」が 25.1%、「ややゆとりがある」が 15.7%となっております。新たに追加した項目のため、前回調査との比較はありません。

12 ページをご覧ください。お住まいの地域についても前回調査と大きな変化はなく、各地域の方から満遍なく回答をいただいています。

13 ページをご覧ください。居住年数についても前回と大きな変化はなく、「20 年以上」が 44.0%となっております。

回答者の属性に関する結果については以上です。

14 ページをご覧ください。これ以降については、調査の中でお聞きした様々な内容について、いくつかピックアップして前回調査との比較をさせていただきます。

まずは、「自由な時間について」です。15 ページをご覧ください。「自由な時間が十分かどうか」について、前回調査では、仕事または学校などが「ある日」と「ない日」に分けて回答を求めていましたが、設問数が多くなっていたことを踏まえて、今回は「ある日」と「ない日」を分けずに回答を求めています。左側の結果を見ると、「十分」、「まあまあ十分」が合わせて6割を超えています。

16 ページをご覧ください。「自由な時間がどのくらいか」についても、前回調査では、仕事または学校などが「ある日」と「ない日」に分けて回答を求めていましたが、この項目についても分けずに回答を求めています。左側の結果を見ると、「1時間以上3時間未満」が30.4%、「3時間以上5時間未満」が24.0%、「7時間以上」が26.1%となっています。

17 ページをご覧ください。生活の満足度については前回と大きな変化はなく、「やや満足」が41.6%となっています。

18 ページをご覧ください。次は、「生涯学習について」の項目となります。

19 ページです。「生涯学習という言葉聞いたことがあるか」については前回と大きな変化はなく、「言葉は聞いたことがあるが、内容はよく知らない」が53.5%となっています。

20 ページをご覧ください。次は、「船橋市が提供する生涯学習について」の項目です。

21 ページをご覧ください。「この1年間に船橋市が主催した講演会などに参加したことがあるか」については、前回と大きな変化はなく、「知らなかった」が53.0%となっています。

22 ページをご覧ください。年齢別の回答とクロス集計した結果もまとめさせていただきました。表の左側に先ほどの回答、右上に年齢の項目を設けています。先ほど回答が一番多かった「知らなかった」の項目については、「20～29歳」が174件と一番多く、60歳未満の方を中心に回答数が多い傾向にあります。

23 ページをご覧ください。こちらは、「健康状態」、「幸福度」、「経済状況」について、それぞれの回答状況とクロスさせて集計した結果です。回答が一番多かった「知らなかった」の項目について、健康状態は「まあよい」が444件と多く、幸福度は「やや幸せ」が286件、経済状況は「ふつう」が311件と多くを占めております。

24 ページをご覧ください。ここでは、先ほどの設問で「知っていたが、参加しなかった」とお答えの456の方を対象に、その理由をお聞きしております。前回と大きな変化はなく、「時間の余裕がない」が32.3%、「自分の希望に合った内容ではない」が29.2%、「一人では何となく参加しづらい」が24.6%、「必要性を感じない」が24.1%となっております。

25 ページをご覧ください。次は、「現在の生涯学習について」の項目となります。

26 ページをご覧ください。「現在、継続して何かを学んだり活動したりしているか」については、前回と大きな変化はなく、「していない」が51.9%となっています。なお、この項目は一番星プランの基本構想「目標Ⅰ」の指標となっており、「している」の割合について、目標値を60%としています。

27 ページをご覧ください。先ほどの回答結果について、年齢別とのクロスの結果をまとめさせていただきました。回答が一番多かった「していない」という項目については、「50～59歳」が127件で一番多く、次に、「40～49歳」の方が115件と多い状況でした。

28 ページをご覧ください。こちらは、「健康状態」、「幸福度」、「経済状況」についても、それぞれ回答状況とクロスさせて集計したものです。回答が一番多かった「していない」の項目について、健康状態は「まあよい」が462件と多く、幸福度は「やや幸せ」が265件と多く、経済状況は「ふつう」が309件と、多くを占めています。

29 ページをご覧ください。次は、「今後の生涯学習について」の項目です。

30 ページをご覧ください。「今後、新たに学習を始めるとしたら、どのようなことを学習したいか」について、前回と大きな変化はありませんが、上から2番目の「情報端末やインターネットに関すること」の割合が少し増えており、下から2番目の「特にない／わからない」の割合も増えています。

31 ページをご覧ください。「今後、どのような形態や場所で学習したいと思うか」について、前回から大きく割合が増えたのが「インターネット」の項目で、42.4%となっています。1つ下の「自宅での学習活動」も42.7%と多くなっています。

32 ページをご覧ください。年齢別のクロス集計の結果もまとめさせていただきました。前回より回答が増えた「インターネット」については、「20～29 歳」が 81 件と一番多く、1つ下の「自宅での学習活動」についても、「20～29 歳」が 75 件と、一番多くなっています。

33 ページをご覧ください。「これから学習するとき、どのような成果を期待しているか」については、前回と大きな変化はなく、「心身の健康を維持・増進すること」が 55.4%となっています。

34 ページをご覧ください。「学習や活動をするのに最も都合がいい時間帯」について、前回では、仕事または学校などが「ある日」と「ない日」に分けて回答を設けていましたが、この項目についても分けずに回答を求めています。左側の結果を見ると、「9:00～12:00」が 25.9%、「21:00～」が 24.9%となっています。

35 ページをご覧ください。この回答結果について、年齢別の回答もまとめさせていただきました。「9:00～12:00」は「75～79 歳」が 66 件で一番多く、特に 70 歳以上の件数が多い状況でした。「21:00～」は、「20～29 歳」が 62 件で一番多く、50 歳未満の件数が多い状況でした。

36 ページをご覧ください。ここでは、「学びの成果を自分以外のために活かしたいと思うか」についてお聞きしており、「どちらかといえば、活かしたい」が 37.3%となっています。なお、この項目は、一番星プランの基本構想「目標Ⅱ」の指標となっており、「既に活かしている」の割合について、目標値を 23%としています。

次の 37 ページをご覧ください。先ほどの回答結果について、年齢別の回答結果もまとめさせていただきました。「どちらかといえば、活かしたい」は、「50～59 歳」が 66 件で一番多く、60 歳未満の件数が多い状況でした。

次の 38 ページをご覧ください。ここでは、「今は活かしていないが、今後活かしたいと思っている」とお答えの方を対象に、「学びの成果を自分以外のために活かしたいにもかかわらず、活かしていない理由は何ですか」とお聞きしており、前回と大きな変化はなく、「活かすことができるまでの段階に達していない」が 64.9%となっています。

39 ページをご覧ください。ここでは、「既に活かしている」、「今は活かしていないが、今後活かしたいと思っている」、「どちらかといえば、活かしたい」とお答えの方を対象に、

「学びの成果を自分以外のために活かそうとするとき、必要なことは何だと思うか」についてお聞きしています。前回と大きな変化はなく、「地域活動・ボランティア活動の情報提供の充実」が 31.3%、「知識・技能や経験を活かしたい人と活動の場を結ぶ役割の充実」が 39.4%、「同じ分野の人材交流」が 37.6%となっています。

40 ページをご覧ください。次は、「お住まいの地域について」の項目となります。

41 ページをご覧ください。「お住まいの地域について心配なことは何か」については、前回と大きな変化はなく、「防犯対策」が 44.3%となっています。

42 ページをご覧ください。次は、「船橋市の生涯学習施設・施策について」の項目です。

43 ページをご覧ください。「公民館で様々な分野のサークル活動が行われていることを知っているか」については、前回と大きな変化はなく、「知っているが、参加（見学）したことはない」が 48.1%となっています。

44 ページをご覧ください。ここでは、「知っているが、参加（見学）したことはない」とお答えの方を対象に、その理由は何かをお聞きしています。前回と大きな変化はなく、「時間の余裕がない」が 38.6%となっています。

45 ページをご覧ください。「利用したことがある生涯学習施設がどれか」についても前回と大きな変化はなく、「図書館」が 48.8%、「ふなばしアンデルセン公園」が 44.8%、「公民館」が 41.0%と多くの割合を占めています。

46 ページをご覧ください。「利用・参加したことがある生涯学習事業・施策はどれか」についても前回と大きな変化はなく、「生涯学習事業・施策を利用・参加したことがない」が 66.8%となっています。

47 ページをご覧ください。最後に、「船橋市の生涯学習環境にどの程度満足しているか」についても、前回と大きな変化はなく、「どちらともいえない」が 73.3%となっています。

48 ページをご覧ください。これまでのアンケート調査結果を踏まえて、今後の計画策定に向けての課題について触れさせていただきます。

49 ページをご覧ください。まず、ふなばし一番星プランの大きな2つの目標について、現状の数値を踏まえて、目標値の達成に向けてどのような施策が必要なのかを考えていく必要があります。

50 ページをご覧ください。改定が必要となる推進計画について、現在の計画の体系を掲載しておりますが、新しい推進計画ではどのような施策を設定していくかを考えていく必要があります。

51 ページをご覧ください。現在の計画で、先導的に取り組む必要があると考えられる内容を明確化したリーディングプロジェクトについて、新しい推進計画の策定に当たり、その取扱いをどうするか考えていく必要があります。

52 ページをご覧ください。前回の会議でお示した人口の推移、公民館利用者数などの推移、社会教育関係団体数の推移など、それら最近の動向も踏まえて議論をしていただく必要があると考えております。

53 ページをご覧ください。最後となりますが、先ほどご説明させていただいたアンケート調査結果については、今回は単純集計、1つの質問に回答という形の結果をもとに説明しましたが、グラフやクロス集計も加えて、さらに詳細な分析をした報告書を完成させていただく予定です。次回の会議では、報告書をご覧いただきながら議論いただきたいと思いますと考えています。また、今後の会議で委員の皆様からご意見を伺いながら、来年度末の新しい推進計画の策定に向けて検討を進めていく予定です。

説明は以上です。本日、委員の皆様には、今回ご提示したアンケートの調査結果から見えてくる現状や課題、また、前回の会議でお示した最近の動向も踏まえ、どのような取組が必要となってくるか、また、リーディングプロジェクトの設定などについてご意見をいただきたいと思いますと思っております。

長くなりましたが、説明は以上です。どうぞよろしく願いいたします。

○明石委員長

藤井課長、ありがとうございました。

非常に興味深い結果が出てきております。各委員の方々、今の藤井課長のお話をお聞きしながら、ご自分の感想でもよろしいですから、まずお聞きしたいと思います。その後、感想を踏まえて、今後どういう方向でこの船橋の生涯学習計画を策定すればいいかということについてのご提案をいただければと思っております。よろしく願います。

では、草野先生、突然ですが何かございますか。

○草野委員

感想としては、まず、アンケートに回答する上でインターネットを活用して、それが非常に回答数の増加にもつながったということで、この間、令和元年度と比べて令和7年度は、6年、7年ぐらい経っていますけれども、デジタル化、インターネット、それから AI も含めて一つありますけれども、そういうテクノロジーというものが非常に急速に進化していく中で、これは回答の数もそうですけれども、学習をする上でもインターネット、デジタルを活用した学びをしたいという回答が多かったという印象があります。それだけこの5～6年の間に、急速に社会というものがデジタル化やテクノロジーの進化で変わってきたんだなということを改めて感じました。

それから、もう一つとしては、経済状況ということで、11 ページに「現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか」という設問がありますが、その回答として、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合計すると 33%ということで、3分の1が経済状況で非常に苦しい状況にあるのだということです。一方で、「ふつう」、「ゆとりがある」という人がいるわけですが、経済的な困難、苦勞されている方が非常に増えているのではないかと。全体の回答数の3分の1ですから、かなりの数になると思いますので、こういう生活の厳しい局面が多くの人に広がってきているのではないかとということも、感想としてはあります。そういう経済状況、暮らしの状況が非常に不安的になってきている、厳しくなっているということ踏まえた上での生涯学習の在り方というか、生涯学習の学習テーマを

改めて考えていく必要があるのではないかということも感じました。

それから、後半の41ページで、「お住まいの地域について心配なことはなんですか」という設問で、令和元年度と比較してそれほど大きな変化はないと思いますけれども、防犯の問題がかなり増えていますし、「災害対策」が若干ですけれども増えてきています。「地域内の人と人とのつながりが薄いこと」も、若干ではありますが増えてきていますね。「高齢者の孤立」に関しては大体同じような感じですが、地域の生活をしていくと、いろいろな犯罪に遭うのではないかという不安や、あるいは、地震とか火事とか、災害に対する不安だとか、あるいは、孤立を抱えている、孤立感を感じている人が、つながりが薄いという声はあると思いますけれども、孤立化という問題が地域社会の中で深まってきているのではないかということですね。そういうふうな切実な不安感とか孤独感とか、そういうものに対して、生涯学習のテーマとしてどういうことが考えられるかということを感じました。

そして、47ページで、「船橋市の生涯学習環境にどの程度満足していますか」という設問で、これも前回のアンケートとそれほど大きな変化はないと思いますけれども、それにしても、「どちらともいえない」が7割以上、「やや不満」、「不満」を合わせると8割ぐらいの人が満足していないという結果になっていますので、これは、かなり丁寧な分析が必要なのではないかと思いました。

あとは、生涯学習ということについて、知っているかどうかという設問が最初のほうであったと思いますが、19ページです。「あなたは、『生涯学習』という言葉を知っていますか」という設問がありましたけれども、これも前回と比較すると、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」とか、「聞いたことがない」とか、そういう回答が若干ですけれども増えてきています。

船橋市でも生涯学習の取組に力を入れてやってきたと思いますけれども、生涯学習という言葉とか、生涯学習というものがなかなか十分に浸透していない状況が見えてきます。これはなぜなんだろうか。生涯学習という言葉は聞いていないけれども、実はやっている活動が生涯学習の取組にもつながっているのではないかという場合もあります。そもそも生涯学習ということに対してなじみが薄いということもあると思いますけれども、この辺りも、ある意味ショッキングな数字だと私は思いました。生涯学習というものが十分に浸透していないのだなということ、改めてこのデータから感じたということがあります。

以上です。

○明石委員長

非常に大事な視点をいただきました。

まず、インターネット回答の方が6割弱、これは個人的にもびっくりしています。高齢者も含めて、回答方法が紙でないことが、先生がおっしゃるようにこの6年間でテクノロジーの時代に来たかなと感じられます。ですから、ネットを通した中での学び方が変わってきている。特に20代の若者たちがネットの学びとか自宅で学習するスタイルということ

で、学習スタイルも変わってきつつあるなというのが、今の草野先生のご指摘と関連してあります。

どうでしょう、皆さん。まず、第1点目のネット時代における学びというのをどう進めればいいのかということについて、ご意見がありましたらお願いします。

辻さん、何か意見はありませんか。

○辻委員

筑波大学の辻です。ありがとうございます。

6年間でこんなにも変化がデータとして見えてきたことで、すごく貴重なデータだなと改めて思いました。インターネットを活用した生涯学習の支援といったものは何かしら手立てが必要だということを改めて感じましたけれども、それをオンデマンドスタイルで提供するというのを整えたときに、それが多くの人により響き得るのか、もしくは、オンラインであったとしてもライブでのコンテンツを提供したほうがいいのかといった辺りは、一長一短があります。プログラムにおいては、オンラインであったとしてもライブでやったほうがいいのか、そして、特にライブで直接やり取りがなくても、オンデマンドで取りあえず準備しておいて、いつでも再生できるようにしておけば、いいコンテンツは何なのかみたいなことを整理して活用していくと、オンラインならではの生涯学習の充実を戦略的に進められるのではないかと感じました。

ということが1点と、もう1点だけよろしいでしょうか。

先ほどありましたとおり、オンラインを活用すると、社会経済状況による格差をより一層広げる可能性があります。恐らく経済状況に「ゆとりがある」と答えた人たちほど多分オンラインを活用できて、「苦しい」と答えた人たちほど活用が困難になると思いますので、そういった「苦しい」と答えている人たちにはどういうコンテンツを届けることがより望ましいのかといったことは、併せて検討していく必要があるだろうなどは思いました。

○明石委員長

ありがとうございました。

皆さん、30 ページと 31 ページを開けていただけますか。これを見ますと、「今後、新たに学習を始めるとしたら、どんなことを学びたいですか」というと、「職業上必要な知識・技能」はあまり変化ないですけども、「情報端末やインターネットに関すること」は6年前より増えていますよね。それで、「健康・スポーツ」は10%ほど減ってきています。「趣味的なもの」も減ってきている。学びというのが、「特にない／わからない」という、4人に1人が非常に困っているというか、何を学んでいいかわからないという。先ほどの3割の経済的な困難者と、「特にない／わからない」、この辺がどう結びつくかなど。草野先生がおっしゃるように、24%と30%ありますよね。この「特にない／わからない」というのが、船橋だけではなくて、これからの日本全体の社会の課題かなと感じます。

健康と趣味というのは、これまでの生涯学習のかなり大きなテーマでしたよね。その辺の数値が下がってきていますよね。ですから情報端末やインターネット。それで、31 ペー

ジで、どんな場所で学びたいかという点、公民館などは大体変化ない。だけど、新たに「インターネット」が増え、「自宅での学習活動」が増えました。そして、一人学びといひましようか、オンデマンドを含めて新しい学びの形態が出現している。それに対して、これから船橋の生涯学習はどう対応していくかというのは、非常に大事な視点かなと思ひます。

辻さんもおっしゃるように、そういう新しい学び。その学びのツールをものすごく使える人と使えない人が、年齢なのか、経済的な問題なのかというのは、今後、そういう情報のずれといひましようか、格差社会、情報に強い人と弱い人の格差が生まれかねないといひのが辻さんのご指摘です。非常に大事なご指摘をありがとうございます。

では、沼波さん、何か感想がありましたら。

○沼波委員

私は、この6年間で回答数の割合も含めて、6年も経ったにもかかわらず、パーセント的なものは、さっき草野先生がおっしゃったように変わったものもあるけれども、そのほうが少数であって、ほぼ推移が同じように動いているということにすごく衝撃を受けました。6年経っても、生活スタイルやそういうものは、いろいろ取り組んでくださっているにもかかわらず、私たち、参加する側の意欲があまり動かなかったのかなといひのを、これを見たときに感じました。私はもうちょっと推移が上がっていくことを期待していたので、それが、結果を見せていただいたらほぼ変わらないということに、ちょっと衝撃を受けました。

それを踏まえて今後の施策もいろいろ考えなければいけないのですけれども、今日、いろいろな意見が出ると思ひますけれども、私はまずそのところに衝撃を受けてしまったので、今、皆さんの意見を聞かせていただいて、それを整合して、今後の自分の意見としてまとめられればと思ひた次第です。

ちょっと短ひですが。

○明石委員長

ありがとうございます。

では、ほかに何か。水野さん、何かございましたらお願いします。感想でも結構です。

○水野委員

先ほど明石さんから30ページのこと、インターネットについてちょっと言われたので、それについて、今、AIに学ばせながらこのアンケート結果を考えてみているんです。Geminiを今使っているんですけれども、やはりインターネットに関する意欲の向上について、ここを攻めていったほうがいいのかなといひられているんです。

新たに学ぶとしたらといひるところで、今、30ページについて話しているんですけれども、職業上必要な知識、インターネットに関することとあります。僕は、ここに項目がなかったんですけれども、副業に関することを入れるのはどうかと。今、市民の中で副業をしていきたい、生活の向上といひるか、苦しいかどうかといひるところで、苦しい側のほうが33%

で、ちょっとそちらのほうが多く振れているんです。日本人はやはり、今、裕福だよという風潮ではなくて、ちょっと苦しいぐら이다よというのが自分の環境の話しやすさ。今、日本人で、「余裕があつていいよ」なんていう人はあまりいないと思うんです。

そういうことで考えると、ややそちらに寄ってしまっているのはわかるんですけども、本当に欲しいものは自分から取りに行くと思うんです。市から提供されるものは無料だし、何となく流れているから参加しようかなということだと思いますけれども、みんな興味のあることは自分から取りに行くと思います。それが多分ないんだと思うんです、この生涯学習のところに。だから、もっと踏み込んだ、お金を稼ぐような副業だとか。もう一つ考えさせてもらったのが、外国人との共存がやはりすごく大事なのかなと思います。外国人を嫌うだけではなくて、増えていくのは仕方ないので、外国人との共存というところをちょっと攻めていきたいと思います。

話がまとまらないのですが、クロス集計ではなくて、どこかにありましたよね、41 ページですけども、外国人との関係性というところが、令和元年だと 9.9%だったのが 15.3%、150%の伸びなんです。やはり外国人との触れ合いというのを単純に避けるのではなくて、これからはもう親和性を持っていくというところにシフトしていてもいいのかなと思いました。

すみません、まとまりませんが以上です。

○明石委員長

ありがとうございました。非常に大事なご指摘だと思います。

30 ページの、どのようなことを学びたいかということで、やはり職業上の必要な知識・技能、例えば、この辺をもう少し副業も含めて講座を変えていくとか、こういう資格が取れるとか、何か新しい提案をしていかなければいけないかなと。いわゆる従来の趣味とか健康、スポーツというような、一番大事なことなただけけれども、それ以外の、何か新しいチャレンジをすとか、何か獲得するとか、そういう講座も必要になってくる。そうすると、情報端末やインターネットに関することがまた脚光を浴びてくるかなと思います。

非常に今のは大事なご指摘で、これまでの生涯学習といたら、言葉は悪いけれども、高齢者の将来の幸せという、それも大事なんですけれども、もう少し、20 代も増えてきているから、仕事をしたいというか、そういう部分。学習ニーズが高いのが、20 代と 40 代と 65 歳以上なんですね。要するに、3 つの山があるんです。だから、65 歳以上の山も大事にするだけけれども、もう少し、20 代とか 30、40 代の現役世代に対するメッセージをどう出していくかというのも大事かなと、今、水野さんの話をお聞きして思いました。

五藤さん、何か感想でもよろしいですから、ありましたらお願いします。

○五藤委員

私も今、30 ページ、それから 31 ページのところで、やはり今、もう学生は学校で、子供も端末を使って授業を受けたり、いろいろ変わっている中で、年齢が高い人でも、私も年齢が高いんですけども、携帯は使えるのは当たり前になってきた時代だと思うんです。

そこで、今回の調査でもインターネット、自宅での学習活動。自宅での学習活動と言えば、マンツーマンでやるというよりは、Zoom であったり、いろいろなものを使って、たくさん的人数でも講演会もできるし、それからブレイクアウトルームをつくれれば個別相談もできるしみたいなことで、ここら辺はもっともっとこれから広がっていくのではないかということ。

それから、時間の話がありましたよね。どの時間がいいですかというところで、9時から12時が、働いている人も働いていない人も増やしているという、一緒になっているということもあったと思うんですけども、今は確かにコロナ以降、毎日会社に行かなくてもいい人、自宅で仕事をしている人もたくさんいたり、それから、周りを見ても、休みとか時間とか、働く中で使っている人もたくさん増えてきているんです。だから、例えば午前中は駄目だよとか午後は駄目だよというよりは、自分の習いたいもの、やりたいものがあったらその時間だけ、ちょっと遠くに行くのは難しいけれども、オンラインやインターネットを使ってやれるんだったらとてもいいよみたいなものも併せてあるのではないかなということを感じました。

もう一つ私が思ったことは、住まいの地域について心配なことはなんですかという中で、やはり先ほどお話があったとおり、私も全体を見て、変わったところもちろんあるんだけれども、6年経ってもあまり変わっていないんだなと思うことがたくさんありました。あったんだけれども、やはり今心配なことという中で、防犯であったり、交通安全であったり災害、この辺はとても大事だし、継続してということ。ところが、公民館で防犯の講座をやってもなかなか来てもらえない。本当にこんなに必要だと思うならもっと来てもらいたいなと思うところもたくさんあったり。それから、災害対策とか、事件もそうですし、自然災害もあると思いますけれども、こういうことはものすごく大切だと思いつつも、なかなか公民館で企画しても足を運んでもらうことは難しいように感じています。

また、高齢者の孤立というところでも、そんなに数字が変わっているわけではないけれども、深刻化しているのではないかなと思うんです。子供の数が少なくなったり、一緒に暮らしている人は変わらないけれども、昔と比べて何がと言ったら、家族と一緒にとか何々と一緒にというのは、確かにみんな独立して薄くなっているところがあるのではないかなと思います。

このページの1番の「地域の人と人とのつながり」というところにも、昔だったら餅つきがあったよねとか、昔だったらこれがあったよねということ、みんなたくさん言うんだけれども、企画するとなかなか集まらないみたいな、いいとわかっていても集まらないこと、できないことがたくさんあって、市で策定している目標にどうしてもいけないというようなことがあって、今後の必要なことと、やらなければいけないこと、来ていただくこと、参加していただくこと、これがとても大事なことかなというのを感じました。

○明石委員長

非常に大事なご指摘ありがとうございます。とりわけ、この41ページは今後の課題を考

える場合に大事ななど。冒頭、草野先生も言われましたし、五藤さんも言われましたように、地域のつながりが無いとか、高齢者の孤立、要するに、生涯学習が困ったことの解決に寄与できるというのをもっと鮮明に出していかないと。そういう意味では水野さんがおっしゃるように、チャレンジとか前向きとか、今の暮らしを変えるんだというようなアクティブなモーションといいましょうか、またアクションを増やしていければなと思っております。ですから、結局、地域のつながりが無いから防犯や災害の問題、ひとりぼっちの孤立した方、黒字にある交通安全も含めて、まさに生涯学習が解決しなければいけない課題かなというのが1点です。

もう1点は、草野先生と水野さんがおっしゃったように、経済的な大変さ、3割を超える方がいます。その経済的な苦しさをどう打開できるか。全ては難しいかもしれないけれども、その辺をほかの産業と絡めて、この講座の組み方というか、従来の教育委員会だけの組み立てでなくて、ほかの課との連携も含めたプログラムの開発も必要かなというのを、お二人の意見を聞きながら思いました。ありがとうございました。

では、竹迫さん、何かありましたらお願いします。

○竹迫副委員長

よろしく申し上げます。竹迫と申します。

私が思ったのは、1つは、やはり20代の方の回答が増えたというのが非常に良かったなと思っています。その結果がアンケートにも出ているなと思いました。

私が注目して見たのは、27ページですけれども、「あなたは、現在、継続して何かを学んだり、活動したりしていますか」というところの、「している」と答えている20~29歳が127人もいるんですね。彼らはそれを生涯学習という意識もあまりなく、何かやっていることがあるんだろうなと思っていて、その辺りのことが具体的に今はここからは見えてこないのですが、若い人たちがそれを生涯学習とは意識せずに、でも何か学んだり継続してやっているようなことがきつとあるんだろうなと思っていて、それが多分これからの生涯学習と言われるもののプログラムとして開発のヒントになるのかなと思って、非常にここは面白く拝見しておりました。

もう一つ、私が注目したところは、24ページで、「知っていたが、参加しなかった」と答えた方の理由を聞いているところなのですが、「会場までの交通手段が不便」とか、「参加の手続きが面倒」というところが、よく見ると割合として上がってきていることです。6年前と比べてです。どの年代がここをマークしているのか読み取れないのでわかりませんが、何かインターネットで学ぶということに良さを感じている割合が高まっているのと、ここはセットになって、比例して見ることもできるのだなと拝見していました。こういう学ぶ環境がもう少し改善する、やりやすくなることで、もしかしたら学ぶ、学習するという人の割合も増えていくのかなと非常に思ったので、ここは何かシステムを改善することで解決につながるなという、その糸口があるのではないかなと思いました。と同時に、そういうシステムを操れるような役割の人材を、恐らく早急に育成が必要になるの

だなということも感じております。

最後ですけれども、こういう 10 代とか 20 代とかの若い方たちは、「これを学んで地域のこういう課題を解決しましょう」と出すと来ないんです。大概来ないんです。やはり彼らは楽しいから学ぶ、楽しいから集まるみたいなのが非常にあるし、楽しいもので緩くつながっていくという傾向が非常にあるなと思っています。

なので、私からは、まずは入り口を低くして、ああいう若い人たちが何に今必要性を感じていたり、楽しさを感じるかというところを、少し同世代の方も交えながら、こういう場で検討していくといいのではないかなということと、あえて地域のこの問題を解決しようとか、学んでいこうという匂いを出さずに、出さないアプローチというか、結果として地域の課題解決につながっていたねという流れがうまく組めるといいのかなということを感じながらアンケート結果を拝見しておりました。

私からは以上です。

○明石委員長

ありがとうございました。

非常に 20 代の層の把握というのは大事なかと。同じことが、生涯学習の日程で、高齢者は午前中、20 代、30 代、40 代は夜の 21 時から。だから、時間の把握も大事。要するに、いろいろな層の方がいらっしゃるから、新しい学習というか学びたいときは、午前派なのか 21 時以降なのかという、その辺も、講座を提供するほうとしては大変でしょうけれども、要するに、ユーザーが多様化しているということを今のお話をお聞きしながら思いました。だから 20 代をもう少し、クロスを含めてどういう方向を向いているのかというのがわかるといいなというのは、私もそう思います。

ほかに何か、今の皆さんのご意見を伺いながら、新しいご意見がありましたらお願いします。

○明石委員長

はい、どうぞ、水野さん。

○水野委員

最近、母親との会話の中でよく出てくるんですけども、投資について学びたいとよく言われるんですよ。お金に余裕があるとかではなくて、やはり今テレビでよくやっているのを見て、こういうのはどうなのというのはよく聞かれるようになったんです。CM でやっているみたいで。

今さらお金を増やしてもというところはおふくろもあるんですけども、ただ置いておくだけ、寝かしておくだけだったらいいよねというので、投資も身近なものになってきているような気はするんです。うちだけかもしれないんですけども。でもいろいろな人が、私が投資をやっているのを聞いて、学びたいと言ってくる人が多いんです。ここも選択肢の中の一つ。私は経済人なので、さっきからお金のことばかり話していますけれども、ここも一つ市民の副業と併せて、あるところなのかなとは思いました。

○明石委員長

ありがとうございました。

皆さん、28 ページを開いてくれますか。クロスなのでパーセントが出ていませんからうまく言えませんけれども、健康状態と幸福度と経済状況が今学んでいることにきれいに相関があるんです。それで、健康と幸福度との相関は因果ではないんです。だから、幸福だから学んでいるのか、学んでいるから幸福感があるのかというのは、どちらかはわかりませんが、経済のほうははっきりしているので、経済的に大変苦しい人はあまり学んでいないんです。だから、今後ヒントになるのは、経済的な苦しさを体感している方に、どういう学習のツールとか機会を提供するかというのは大事なことです。そういう意味では、このデータは貴重かなと思いました。やはり健康で幸せ感がある人は参加しているんです。経済的に苦しい人は参加していないんです。そういうデータが出ておりますので、これは非常に大事なデータかなと思います。

それで、皆さんにお聞きしたいのですが、生涯学習という言葉を知らない、知らなくても実際に学んでいることは多いと思いますけれども、もう一度、「生涯学習」というワードを浸透させるにはどういう施策が必要かというのを、何かもしありましたらお願いします。

かつて文部科学省は、生涯学習年に幕張メッセで寺脇研さんが100台のピアノを置いて、「生涯学習フェスティバル」というのをずっとやってきたんです。そういう「生涯学習フェスティバル」という名目を打っていかないと、公民館で学べることを生涯学習と思っていない方もいるかもしれない。いま一度、「生涯学習」というワードをどうすれば船橋市民に浸透できるか。地域の行事がありますよね。ばか面踊りも一つの生涯学習かもしれないけれども、そういうことも絡めて、キーワードを生涯学習フェスティバルの中で持っていけないかなという感じはしているんです。

沼波さん、何かありそうですか。どうですか。こういうふうにやれば船橋市民が生涯学習というものに接近できるというか、近づけるというか。

○沼波委員

やはりみんなが参加して楽しく輪が広がるものもいいわけですから、お互いに声をかけあって、そうすると参加する人は当然増えていくと思うんです。だから、自分が体験したことを、まずは仲間に、身近な人に伝えて、そこから輪を広げていく。あの人があんなに楽しそうだなという姿を見れば、じゃあちょっと私もどんなものか行ってみようかしらという、人は楽しくやっている人を見たら、どうしてそうなるのだろうと思いますし、輪を広げていくというか、よりよい人生のためにと私なんかは思います。やはり仲間があつての学びであり成長ですから、自分だけ成長しても、それを認めてくれる人がいなければ寂しいし、お互いに元気になっていけるような、そういう生涯学習を目指すみたいな感じでいいかなと思います。

○明石委員長

船橋は公民館まつりというのはやっているんですか。

○沼波委員

やっています。

○明石委員長

それを、ぜひ実数が欲しい。どういう人が参加していて、できたら公民館まつりを中学生、高校生、大学生に企画させるとか、そういう楽しいことを。だから、さっきの 20 代の層たちにも公民館まつりの企画に入ってもらおうとか。最近、成人式も大分多様化していますよね。だから公民館まつりも、私は中身を知りませんが、もう一度見直していくというか、そのときに「生涯学習フェスティバル」とか何かワードを入れておくと、公民館まつりと生涯学習はつながっているというのがわかるかもしれません。

○沼波委員

今月、来月は各館「こどもまつり」が多分あるので、各館にもよるでしょうけれども、子供にアイデアを募って、接客みたいな、受付なんかも手伝わせたり、そういうのはもう前からやっているんです。子供たちは、やはりそういうのはすごく責任感も生まれるし、また次回も担いたいという気持ちにもなってくれているし、その輪をもっともっと広げるということ、兆しの部分はいろいろな公民館がいっぱいやっているの。ただ、それが大きく育たない。そこでしょうかね。

○明石委員長

では、竹迫さん。

○竹迫副委員長

ありがとうございます。私も今お話しいただいた委員の先生と同じ意見で、逆に「生涯学習」という言葉を出さないほうがいいのではないかなと思っているんです。その辺りは行政が後で、生涯学習がこんなに広がりましたと理由づけすればいいかなと思っていて、むしろどれだけみんなが楽しさでつながれるようなものを生み出していけるかというところかなと思います。なので、多分「生涯学習」とうたと、もしかしたらちょっと、抵抗というわけではないけれども、何となくイメージとして、自分には関係ないかなと思うような層が結構いるような感じがして、作戦としては、後で行政が理由づけしてくっつけるみたいなほうがいいのかということ聞きながら思っていました。

○明石委員長

貴重な意見、ありがとうございます。行政担当者、社会教育主事辺りぐらいは生涯学習ということを使うんだけど、公民館とか公民館まつりでは、そういうのはなるべく控えたほうがいいのかということですね。ありがとうございました。

ほかに何かご意見。では、辻さんお願いします。

○辻委員

単純に用語を認知させる必要性の有無については、私も別に知らなくてもいいのかなと思っているんですけども、認知してもらうための、よく最近使うツールとしてはやはり LINE です。今、船橋市さんの LINE グループみたいなものは、5万4,000人ぐらいは登録し

ているようなので、いわゆるプッシュ通知みたいな形でそこに一斉に情報を流す。もう既にやられていることかもしれませんが、そういった既に多くの人が登録されているツールを活用するというは、一つの方法なのかなと思いました。私も住んでいる地域の LINE を一応フォローしていて、ほとんど読み飛ばしますが、何となく通知が上に出てくるのはありますので、一瞬は目にするといったメリットがあります。

もう1個、資料を見ていて気になったのが、45 ページですけれども、「あなたが利用したことがある生涯学習施設はどれですか」というところです。「子育て支援センター・児童ホーム」というところが、6年前8.3%から今回15.8%になっている理由を事務局にお伺いしたいんですけども、これは児童ホームというのが選択肢に入ったことで増えたのか、それとも本質的にここが増えたのか、どちらの可能性が高いのでしょうか。

○明石委員長

これは、課長、わかりますか。

○社会教育課長

事務局でございます。施設の数自体はこの6年間で変わっていませんので、もしかしたら若い方の回答が増えたことで、お子さんのいらっしゃる方が多くて、全体にすると数字が伸びたということはあるかと思えます。この点はまた報告書のクロス集計などでも分析してみたいと思います。

○辻委員

ぜひお願いします。もしかしたら、ここに一つの兆しがあるのかなと思ったりしました。確かに回答の年齢層が若返ったといったところの影響かもしれないので、次の報告を楽しみにしています。

○社会教育課長

承知いたしました。

○明石委員長

ありがとうございました。ほかに何かございますか。

例えば、私は千葉敬愛短大に9年いたんですけども、短大のホームページを見るのは、高校生ではなくて両親と高校の先生です。見てほしい高校生はホームページをほとんど見ない。InstagramとかX（旧 Twitter）とかLINE とかで見ている。

そうすると、公民館のホームページを見る層の分析をしていただいて、できたら、ある公民館では Instagram とか X（旧 Twitter）をやっているから新しい動きがあるのかとか、そういうメディア媒体の発信状況を公民館別に調べていただくと、新しい層に来てもらっているというのが見えてくるのかなと。特に今回みたいに若い層が増えつつあるから、できたら公民館で有名な影響を与えるインフルエンサーを育成するというのはできないかなと思いますけれども。

○社会教育課長

公民館の発信の状況などは、また次の会議のときにお示ししたいと思います。

○明石委員長

冒頭に草野先生がおっしゃったように、ネットの時代というか、アンケートでもこれだけ増えているのだから、公民館のツールも検討していただくといいかなという感じがします。

水野さん、草野先生が言われた経済的に厳しい3割を超える人の層をどうサポートすればいいでしょうか。新しい仕事を提供するとかはあるのでしょうかけれども、この生涯学習の視点から、経済的な苦しさに対するサポートというのは何か知恵がありますか。

○水野委員

経済的サポートというか、行政がお金をあげるわけにはいかないじゃないですか。そうすると、自分で稼ぐ力というのをみんなに知ってもらいたい。諦めている人が結構多いんです。もう私は社会に参加できないという人が主婦なんかでもいます。今、AIの活用によって自宅にいながらできるよと。みんな生涯学習に参加するのにインターネットがいいという回答もあるじゃないですか。逆にもうそれなんです。公民館の時代ではないんですよ。

これは結構悲しいんですけども、地域にいろいろお金をかけて維持管理している公民館があると思うんですけども、あの利用ではもう駄目なんです。ただの箱なんです。過去の。そこから変えていかないといけないのかなと思います。公民館に人を集めるのではなくて、公民館に行ったら何かあるとか、ポイントがもらえるととか、そういうのをやれば集まってくるんですけども、それは公民館に行きたいのではなくて、ポイントが欲しいだけだから、あまり意味がないじゃないですか。公民館を一回切り離してしまったほうがいいのではないですか。急に途中から過激な意見になってしまってすみません。

○明石委員長

いえ、そういう意見も少しは上がってきつつあるんです。要するに、公民館をどう位置づけするか。やはり一番市民の身近な学びの場としてあるという、それを今のままでいいのだろうかという問題提起は大事かと思います。ありがとうございました。

ほかに全体的に見て何かございますか。

では、最後に辻さん、何か一言ありますか。

○辻委員

ありがとうございます。前回の委員会の際に、健康と幸福と社会経済状況はぜひ入れていただきたいということを要望して、入れていただいて、本当に仮説どおりの関連が出てきました。せっかくこのデータを収集したので、これを切り口にして、より発展的な今後の対策につなげていきたいなと僕自身も改めて思ったので、今すぐに明確にどうしたいといったところは持ち合わせていないのですけれども、また毎日考えていこうと思います。

○明石委員長

ありがとうございました。

草野先生、一言、最後に。

○草野委員

確かにインターネット、デジタル社会ということで、恐らくどんどん今後も進んでいくとは思いますが、そういう時代の流れというか、それを意識して、それにどう対応するかということも当然必要なわけです。もう一方で、対面的な旧来型の社会教育がこれまで蓄積してきたいろいろな経験なりやり方があるとは思いますが。

公民館というものが人々にとって身近で頼りになる存在になるためにはどうしたらいいかということを考えているのですけれども、例えば、かつて公民館の中によろず相談所というものをつくって、いろいろな悩みとか困り事とか相談を公民館で職員の方にお話をして、そういう悩みに対して、こういうことはどうですかとか、いろいろなヒントを与えてくれる。そういう相談機能というものを、インターネットでもそれはできるとは思いますが、やはり対面的な形で、何か非常に困ったこと、悩んでいること、例えば、家族の間のいろいろな悩みでもいいわけですし、それからひきこもりの問題が今は非常に深刻になって、百数十万人がひきこもりの家族を抱えているという時代になっていますけれども、なかなか人には話づらいようなことでも、公民館に行けば、そういう自分が抱えている悩みや困り事に対して親身になって応えてくれるということが、公民館というものが地域に信頼される、頼りにされることの活動になるのではないかなとちょっと考えました。

ただ、そういうデジタル化、インターネットという方向と、もう一方で、従来の公民館が大切にしてきた遺産なり価値というものをどう生かしていくかということも、一方で考えていく必要があると思います。

○明石委員長

貴重な意見ありがとうございました。

やはりもう一度、公民館の原点は何であったのかということ、対面で絆をつくっていく。困り事、悩み事、多くの場合、例えば民生委員がありますけれども、民生委員のなり手も少なくなって困っているのしょうけれども、逆に公民館が児童民生委員と協働してサポートしていくような仕組みづくりも可能かなと思います。

例えば、さっき先生が言われたように、不登校で 35 万人も来ております。そういう不登校とか、また、ひきこもりはもっと、推計的には 50 万人、60 万人と言われますけれども、そういう方の困り事。それから、例えば外国人で、水野さんもおっしゃったけれども、千葉県では約 22 万人ぐらい、全体の 10 分の 1 ぐらいは外国の方がいらっしゃるけれども、共生するときの困り事とかがあるかなと。

もう一つは、私の知り合いで、ある大きな会社を辞めて自分で会社をつくったのは、何とか保険に入っているけれども、どこの保険に入ったかはっきり覚えていない。終活を踏まえて、何に入っているかわからない、そういう困り事。要するに、80 歳以上の方の困り事というのは何かあるのかもしれない。終活に関することも含めるとか、そういう新しい時代の悩み事、困り事をもう一度公民館で洗い直していくという、今、大事なご指摘を受けて、そうか、困り事だ、経済の困り事もあるし、子育てもあるから、その辺が社会教育の原点かなとふと思いました。先生、ありがとうございました。

なければ、この辺で第2回の会議を終わりたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。水野さん、手が挙がっています。

○水野委員

いいですか、最後に。やはり公民館へどうしてもつなげたいのであれば、もうこちらで、みんなが来てくれる公民館をつくってしましましょうよ。デジタル公民館。みんなを公民館に呼ぶのにそんなに苦労するんだったら、みんなが行きやすいインターネット上に公民館をつくってしましましょうよ。

○明石委員長

それも面白い一つの案ですね。船橋発デジタル公民館。

○水野委員

どうですかね、何かできないかな。今、これだけデジタル技術が発達しているので、逆にそちらを入り口にしてしまうのはどうですかね。すみません、最後に。

○明石委員長

それは興味深い提案で、それは事務方で、すぐには無理でも、そういう構想、いろいろあってもいいと思うんですよ。対面型の公民館、デジタル公民館というものもあるから。

では、竹迫さん、どうぞ。

○竹迫副委員長

違います。デジタル公民館に賛同しますというマークを挙げただけです。すみません。

○明石委員長

個人的にはそういうのが1回ぐらいあってもいいかなという感じもしますけれども、面白いね。そういう大胆な発想が欲しいですね。

では、以上をもちまして、第2回の会議を終わりたいと思います。どうも今日のご出席いただきましてありがとうございました。

では、事務方に返します。

○社会教育課長補佐

ありがとうございました。以上で令和7年度第2回船橋市生涯学習基本構想・推進計画検討委員会は終了になります。

第3回検討委員会は3月23日（月曜日）、午後3時から、会場は船橋市役所本庁舎6階、602会議室を予定しています。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

午前11時53分閉会